

# 「全国学力・学習状況調査」を活用した授業改善

## ●授業実践アイデア例（授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例）

全国学力・学習状況調査の問題や結果等を踏まえて、『思考し、表現する力』を高めるための実践モデルプログラム』を活用した授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例を示しています。

### 全国的なアイデア例

#### 中学校・国語科「相手の思いを引き出すインタビューを通して自分の考えをまとめよう」(1年生)

**全国学力学習状況調査の結果分析から**

課題の見られた問題

① 出題の背景・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる

② 今年度の「話すこと・聞くこと」の単元では、総合的な学習の時間と関連させた場面設定となっていたので、「教科等横断」「目的意識」「ICT活用」をキーワードに作成する。

### 見いだす

総合的な学習の時間では、自分の前向きな行動のために、様々な職業や働き方について調べ学習を行ってきたが、今回の調査の結果は、関心が高かった仕事について、実際に働いてみたいという方がインタビューを通して、働く上で大切なことを考えてみた。

**授業改善のポイント**

指導事項を具現化したインタビュー映像を教材として、生徒自身に「偶然としたインタビュー」ではなく、「関心を持った職業や働き方のあるインタビュー」をすることが重要であることを実践的に扱えます。

**自分で取り組む**

地域にある会社で電化製品を開発している方のメッセージが企業ホームページに掲載されていた。この方にさらに詳しくお話を聞きたい。

①「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も考慮したい」と考えるのどうしてか。  
「詳しい理由」を知りたい!

②「安全性を低くしつつ、デザイン性や利便性を兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。「具体例」を知りたい!

### 広げ深める

①毎日、課題の解決方法を模索しています。

②おもしろい、私は仲間と話をしたいです。

③課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出したのでしょうか。私は美術部に所属しているのですが、作品の制作が滞ってしまうことがあります。

**授業改善のポイント**

聞き取ったことを基に自分の考えをまとめることができるかを問うことが大切ですが、そのためには、普段から「ただ聞く」のではなく、共通点や相違点などに着目して自分の考えをもつ学習活動を展開する必要があります。

④さらに聞きたい話を引き出すために、相手の発言に自分の体験を関連付けて質問する。

⑤さらに聞きたい話を引き出すために、相手の発言に自分の体験を関連付けて質問する。

⑥さらに聞きたい話を引き出すために、相手の発言に自分の体験を関連付けて質問する。

R5 中学校国語「相手の思いを引き出すインタビューを通して自分の考えをまとめよう」(1年生) [話すこと・聞くこと]

## ●課題別実践アイデア例（課題となる部分に重点的に効果を発揮する具体例）

全国学力・学習状況調査の結果等を分析した結果、具体的に課題となる部分に対して重点的に効果を発揮できるような取組について取り上げています。

### 課題

**【算数】二つの数量の関係（割合）について考察することが苦手**

**手立て**

問題場面から、「基準量」「比較量」「割合」の関係を、自分にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉え、式を立てるよう指導する。

**具体例**

**POINT ①** 割合として表される数量に関わる生活体験を豊かにする。

○「基準量」や「比較量」は変わっても、「割合」は変わらないことを確かめる。

・飲み物を実際に何等分かにして、飲み物の量、果汁の量をそれぞれ求め、それらを使って果汁の割合を求めていく。

・生活体験の中で、ジュースを分けたときに凍（凍か）が変わらないのは、割合が変わらないことに気付く。

**POINT ②** 「日常の具体的な場面」、「図や表」、「数と式」を相互に関連付けて、割合について理解できるようにする。

○果汁の割合について、自分にとって分かりやすい図をかいて、数量の関係を捉える。

・線分図、数直線、割合図、表などを使って、果汁の割合と飲み物の量、果汁の量の関係を捉える。

・果汁4.0%とは、飲み物の量1.00mLだったら、果汁の量が4.0mLになるなど具体的な量に書き換えて考える。

**POINT ③** 割合を用いる際、比例の関係を前提にしていることを理解できるようにする。

○飲み物の量は、果汁の量に比例することに気付く。

・果汁の量と飲み物の量の表をつくり、果汁の量が2倍、3倍になると、飲み物の量も2倍、3倍になることを確認する。

・表から、(果汁の量) × (決まった数) = (飲み物の量) になることを確認する。

### 課題

**【英語】自分の考えやその理由を書くことが苦手**

**手立て**

コミュニケーションにおける目的・場面・状況の特定と多様な表現の構築  
POINT ① 目的・場面・状況の明確化  
POINT ② コミュニケーションにおける背景理解  
POINT ③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

**具体例**

**POINT ①** 目的・場面・状況の明確化

① 特定の言語材料を使って表現することと各生目的にするのではなく、学習した言語材料を使って表現したり、理解したりする目的・場面・状況を明確に設定することで、実際に近いコミュニケーションを生み出すことができる。そして、それが学習意欲につながることを期待できる。

**POINT ②** コミュニケーションにおける背景理解

① 異文化や価値観に基づく適切な表現は必要

・実際に近いコミュニケーションを生み出すためには、その国の言語文化を理解する必要がある。指導者がこれを理解し、伝えにくいことで学びに深まりが生まれる。

・右の例は、日本語(文化)に基づく解釈をすると、混乱が生じる可能性があることを示している。

**POINT ③** 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

① 場面に応じた適切な表現を構築する

・同じテーマや、同じ内容を表現するでも、手段(やり取り・発表・書く)や場面(フォーマルな場・カジュアルな場)、目的(交流や遊戯など)によって伝え方は変わってくる。これらを理解することによって、多様な表現を構築することができるようになる。

R4 算数「ふたつの数量の関係（割合）を考察する」

R3 英語「自分の考えやその理由を書く」

※本ページに関連する URL 及び QR コード

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou-jugyoukaizen/bunseki-katuyou-jugyoukaizen.html>



